

# 企画メモ1.0

【企画メモ:ver.1.0】これは当プロジェクトの内部用コンセプトメモです。

整ったコピーライティングではなく、制作過程の思考と迷いをそのまま公開します。

誰でもコメント可能です。

あなたの意見、批判、落書きで、このコンセプトを改訂してください。

## まだ見ぬ誰かをさがすTシャツ



## デザイン・パッケージ

現時点では製造コストから前面プリントのみを想定。Tシャツは5オンス以上でゆとりのあるシルエットのボディを選ぶ。

被写体(知らない人)から購入者(知らない人)へのメッセージカードとかを同梱したい。ボイスメッセージとかビデオかメッセージとかもありかも。その人が使ってる香水とかTシャツにつけてもいい。

## コンセプト

### 人間性の回復

人間が「機能」や「道具」として扱われる統治された都市において、このTシャツを通じて、他者への眼差しを機能から「純粋な好奇心」へと回帰させる。このTシャツは探して見つけることが目的ではない。それでは他者への眼差しがただの遊び道具に向けられるものになってしまう。

このTシャツを着ることで得られるであろう、「さがすという眼差し」を持つこと、そしてその持っている間の日々のプロセスに目的がある。

## 載る人へ

### メタメッセージ

Tシャツに大きくプリントされるのは普通は著名人。Tシャツにプリントされるということに、そのコストのふりから、あるいは着るという選択から、被写体の権威性が前提とされている。「有名」でない人にもそのプリントの枠を譲ることで、その価値を倒錯させたい。

また、デザインのサンプリングをするFucking AwesomeのClass Photoシリーズは、有名なスケーターの卒業アルバムの写真などをプリントしているが、「有名なスケーターの幼少期」という結果論的な権威づけこそが倒錯的で、無名人の同時代にこそ全く肯定すべき何かがあるはず。有名人の過去の写真を伝説として消費するよりも、今ここに生きている有名でない人の現在の方が僕たちが直視すべきで、触れたい温度なのではないか。

### 写真のトンマナ

写真はこのTシャツのために証明写真BOXで新たに撮影してもらおう。青一色の背景の狭い部屋という統治の箱の中で、全く証明写真的ではない格好・ポーズ・表情で写真を撮ってもらいたい。それはあえて反抗的になることなくとも、好きなものを食べながら、普通に音楽を聴きながら、つて感じで反抗的になる。

### デザインのトンマナ

結局はこのコンセプトで被写体のことを消費してしまう可能性が大いにある。ただの顔としてあるいはそれに伴うバイアスに抗うために、プリントにはその人のその人らしい部分のデータを載せたい。好きな寿司ネタ3選とか、癖とか。(データな時点で人間性の侮辱か、?)Tシャツにその人の文章とかを同梱したい。こういったパーソナルな情報というのは、マッチングアプリや就活など選別の時に差別的に働く。けれど、このTシャツでは何も選別しないので、愛嬌や想像のきっかけと機能する、してほしい。

## 着る人へ

### 買うこと-他者への純粋な好奇心とその暴力-

目的合理化の進んだ都市の中で他人に興味を持つのは、その人が提供してくれる価値への期待からであることが多くなっているだろう。仕事をくれそうだと、興奮をくれそうだとして人へ関わっていくのはその人の後ろにある目的のためにその人を道具にしているのではないか。

Tシャツの販売ページでは、顔写真にはモザイクをかけて好きな寿司ネタ3選などテキストデータだけが表示されている。それはジャケットだけを見てレコードを選ぶ時同様に、その内奥への純粋な好奇心が掻き立てられるだろう。

そして買ったTシャツが届き、初めてその顔写真を見て自分が形成したイメージとの差に気づき、自分のバイアスを認知する。そもそも、お金を払って人の実存が描かれたTシャツを買うこと自体

が暴力的であったのだ。我々はその暴力性を自覚している。それでも、このTシャツを作るのは、それでも、都市の分断を乗り越えたいからだ。

## 着ること-移動から人探しへ、通行人から探している人への眼差しへ-

Tシャツには大きく「I'm looking for this person」と書かれていて、この服を着ることで勝手に知らない人を探すことになる。重要なのは、実際にその人を探すことに注力することは真の目的ではないということだ。その人を探す過程で、今まで通行人としてあるいは風景として向けていた都市の人々への眼差しを、人間への眼差しへ近づけることが目的だ。

その知らない人は同時代の無名の人であるため、都市の中ですれ違ってきた・すれ違っていく人かもしれない。その人を探すという新たな目的を持った都市の中の移動は人探しへと移り、すれ違う通行人は探している人を含むかもしれない集団になる。都市の中でお互いに人間への眼差しを持てるようにしたい。

つまり、「見つけること」ではなく「見つけようとする」に人間性の回復があると考えている。

## 出会うこと-一度会ったら二度と会わないかもしれない都市の中で-

このTシャツを着ていたら、もしかしたらその被写体と出会うことになるかもしれない。都市の中でそれは非常に稀有だろうが、起こり得ないわけではない。それこそがこのTシャツのコンセプトを可能にしている。

もし、その人と出会ったら何をするんだろう。なんて話すんだろう。普通に気になる。

## 着る人を見てる人へ

### 探すこと理由

何かを探すには理由が必要で、その理由は少ない。このTシャツを着ている人は、実際どれほど本気で探しているかにかかわらず、無名の人を探しているということになる。けれどそこに理由はない。理由もなく探していることのナンセンスさが都市の中で余白になってくれるといいな。